

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.2	
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル		-		-	-	-	-		
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能		-		-	-	-	-		
2 界壁遮音性能		-		-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		-		-	-	-	-		
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温		-		-	-	-	-		
2 外皮性能		-		-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性		-		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		-		-	-	-	-		
2.3 空調方式		-		-	-	-	-		
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率		-		-	-	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		-		-	-	-	-		
3.2 グレア対策									
1 昼光制御		-		-	-	-	-		
3.3 照度		-		-	-	-	-		
3.4 照明制御		-		-	-	-	-		
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質		-		-	-	-	-		
4.2 換気									
1 換気量		-		-	-	-	-		
2 自然換気性能		-		-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		-	-	-	-		
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視		-		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		-		-	-	-	-		
Q2 サービス性能								3.6	
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-		
3 バリアフリー計画		-		-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観		-		-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		-		-	-	-	-		
3 内装計画		-		-	-	-	-		
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計		-		-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性									
2.1 耐震・免震・制震・制振									
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.22	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-		2.0	0.22	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-		-	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		3.0	0.11	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		汚水排水 VP(B) 雑排水 VP(B) 通気 VP(A) Eは不使用		5.0	0.22	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.22	-	-		
2.4 信頼性									
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		-		3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスAを採用		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性		4.2	0.50	-	-	4.2
	3.1 空間のゆとり		5.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり	階高 3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	1階倉庫 4500N/m ² 以上	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	ケーブルラック・電線管・空配管等により仕上材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が出来る	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	ケーブルラック・電線管・空配管等により仕上材を痛めることなく通信配線の更新・修繕が出来る	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	1.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	2.9
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	No.1 敷地に対して住宅地が残る北側は外壁のボリュームに配慮し、周辺景観との調和を図る No.2 植栽によって沿道に緑の連続性の確保するとともに、修景に寄与している No.5 敷地外からの良好な景観を形成している	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.5
LR1	エネルギー		-	-	-	-	-
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-
3	設備システムの高効率化		-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
4	効率的運用		-	-	-	-	-
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-
LR2	資源・マテリアル		-	0.50	-	-	3.6
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水	自動水栓に加え、節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	3.5
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	床:長尺塩ビシート 天井:岩綿吸音板	4.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	No.1 躯体と仕上材が容易に分別可能となっている No.3 再利用できるOAフロアも採用している	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.9	0.20	-	-	3.9
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法に該当しない建材種別が4つある	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1 消火剤	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3	敷地外環境		-	0.50	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		-	-	-	-	-
2	地域環境への配慮		3.4	0.50	-	-	3.4
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器も含むガス設備の不採用により、大気汚染防止対策としている	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	No.3 適切な量の駐車場を確保 No.4 荷捌き用車両の駐車施設も確保 No.5 周辺の渋滞緩和対策は、OUTとINを別々に設置して構内一方通行としている	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.4	0.50	-	-	3.4
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-	
	1 騒音	-	-	-	-	-	
	2 振動	-	-	-	-	-	
	3 悪臭	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.67	-	-	
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		4.4	0.33	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	No.1 光源は、総合効率の高いLED照明設備を採用 No.2 投光照明は、着色なしの昼光色を採用	5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0	-	-	2.0	1.0	1.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	1.0	-	-	-	2.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	1.0	3.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0㎡/人 病床 .0㎡/床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/㎡
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 15 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 15 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 7.7 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 3.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 20000 N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 23% 建物緑化指数 11%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 40% 水平投影面積率 1% 地表面対策面積率 10% 舗装面積率 32%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 0 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年㎡ 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0% 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
3 設備システムの高効率化	BEI/BEI _m 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - - 一次エネ削減率 再エネ有 無 -
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 フロアリュウムフレーションNW自治体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 0.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 675
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 65% 隣棟間隔指標R _w 3.00 地表面対策面積率 11.4% 屋根面対策面積率 0.1% 外壁面対策面積率 0.0% 見付面積S _b 3.581㎡ 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 256.65 m 基準高さH _b 21.53 m 緑地 5,661㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡